

謹賀新年





年頭のご挨拶

公益社団法人 浦和法人会

会長 池田 一義

あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、会員の皆様には、新春の門出を健やかに
お迎えになられたことと謹んでお慶び申し上げます。また、
法人会の諸事業につきまして、日頃より一方ならぬご支援、
ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の世界経済は、長引く物価上昇に対して各国中
央銀行が政策金利の引上げを継続した結果、緩やかにでは
ありますがインフレの鎮静化が進みました。しかしながら、
欧州など一部の国・地域では金融引締め副作用として景
況感の悪化や景気の減速が表面化し始めた他、中国におい
てはGDP約3割を占めるともいわれる不動産関連市場の
低迷が続くなど、全体として成長率は鈍化しております。

また、世界の軍事情勢に目を向けますと、ロシアによる
ウクライナ侵攻は未だ膠着状態が続いている他、10月には
新たにイスラエルとハマスの軍事衝突が発生し、残念なこ
とに多くの民間人が犠牲となりました。中東情勢の変化は、
経済に与える影響も大変大きいことから、引き続き注視して
いく必要があると考えております。

国内経済においては、約3年続いた新型コロナウイルス
感染症が5類へ引き下げられ、日本経済は正常化に向けて
歩みを始めました。コロナ禍で中止や規模縮小を余儀なく
されていたイベントは続々と再開され、多くの国内外観光
客が全国各地を訪れるなど、名実ともにポストコロナへの
移行を実感した一年でありました。

昨年10月には消費税インボイス制度がスタートし、今年
1月からは改正電子帳簿保存法の猶予期間終了により帳簿
書類等の電子保存が義務化されます。会員の皆様におかれ

ましては制度対応に向けて準備を進めてきたことと思いま
すが、是非これら諸制度への対応をDXの契機としていた
だき、事業効率化と生産性向上に向けた一層の取組みをお
願いするところでございます。

昨今、法人会会員の大宗を占める中小企業の経営環境は
目まぐるしく変化しており、以前にも増して企業の舵取り
は困難なものとなっております。不確実性の高い時代を乗
り越えるためには、外部環境変化や多様化する社会の二
ズに合わせて自身のビジネスを変容させる、自己変革の取
組みが求められています。

浦和法人会では、会員の皆様と共にこの難局を乗り越え
るべく、今まで以上に皆様のご意見やご要望をお聞きし、
皆様の持続的成長をお手伝いしてまいります。同時に、会
員の皆様に寄り添いながら、法人会活動を盛り上げてまい
りたいと思っております。

2024年の干支である辰は十二支の中で唯一空想上の
生き物であり、最も縁起が良いとされています。そして、辰
年は自然万物が振動し草木が成長して活力が旺盛になる年
といわれています。私たち法人会は基本理念である「税の
オピニオンリーダー」としての責務を全うすべく、皆で力
を合せて試行や変革に果敢に挑戦して参ります。そして、
会員の皆様にとって魅力のある、そして地域にとって存在
感のある団体であり続けたいと思っております。

本年も、法人会活動に引き続きご支援とご協力をお願い
いたしますとともに、会員の皆様のご健勝とご多幸、事業の
ご繁栄を祈念いたしましたして、年頭のご挨拶といたします。



副会長

鈴木 久雄



副会長

志村 宜洋



副会長

秋本 清一



副会長

山崎 政次



副会長

小谷野 堅太郎

(順不同)



年頭のご挨拶

浦和税務署

署長 大竹 泰彦

令和六年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

公益社団法人浦和法人会の皆様方におかれましては、健康やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、池田会長をはじめ役員の方々や会員の皆様方には、税務行政の円滑な運営に対し、深いご理解と多大なご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

浦和法人会におかれましては「地域の発展と活力ある法人会をめざす」のもと、税に関する各種研修会の開催、租税教室への講師派遣、「税に関する絵はがきコンクール」の実施など、租税教育事業に力を入れていただき、正しい税知識の普及並びに納税道義の高揚に多大な貢献をいただきました。

今後とも、地域社会に密着した魅力ある会運営により活力のある組織が築かれることをご期待申し上げますとともに、皆様方と連携・協調を図りながら法人会活動に協力してまいりますので、引き続きのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

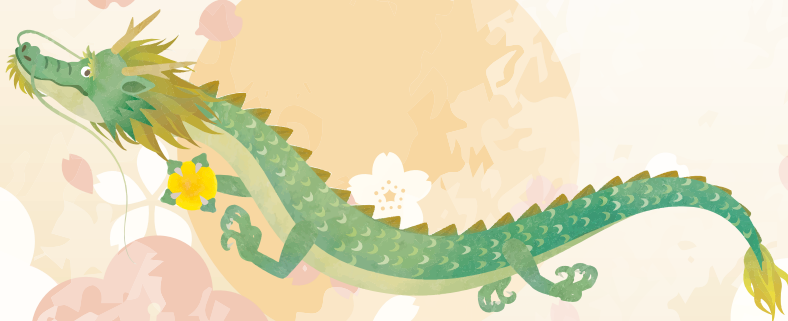
さて、税務行政を取り巻く環境が国際化・ICT化等により大きく変化していく中、私どもとしては、あらゆる税務手続を税務署に行かずにできる社会を目指して、デジタルを活用した国税手続等の一層の利用拡大に努めております。会員の皆様方には e-Tax をはじめ、ダイレクト納

付や電子納税証明書など各種制度の積極的なご利用にご協力をお願いいたします。

まもなく、令和5年分の確定申告が始まります。今年は、マイナポータル連携により控除証明書等のデータを自動入力できる範囲が拡大します。加えて、事業主の方が給与所得の源泉徴収票を e-Tax で税務署に提出いただけますと、給与所得の情報も自動入力の対象となり、従業員の方がより便利に確定申告書の作成をすることができます。混雑が予想される確定申告会場へ出向かなくても納税者の皆様は「より便利に、よりスムーズに」申告・納税できるよう取り組んでおりますので、是非とも、法人会会員の皆様そして各法人の従業員の皆様には、マイナンバー方式によるご自宅からのスマホ申告・e-Tax 申告と納税は振替納税をご利用いただければと思います。

また、消費税のインボイス制度については、制度の周知・広報に多大なご協力いただき誠にありがとうございました。引き続き、本制度の定着に向けた取組を継続しながら、事業者の皆様が適切に申告を行えるよう、柔軟かつ丁寧な対応を行ってまいりたいと考えております。

結びに当たり、令和六年が皆様方にとりまして幸多き年となるよう祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。



辰



地球温暖化が寒冷化を引き起こすかも

埼玉県環境科学国際センター・総長
東京大学名誉教授
植松 光夫

埼玉から眺める富士山はもう真っ白な冬景色となりました。富士山に降る雨や雪溶け水は、季節を通して麓のあちこちで湧水になり、幾つかの河川として日本で一番深い駿河湾へと流れ込みます。その水は海の表面から蒸発して雲を作り、また雨や雪になって、空と海と陸の間を循環しています。駿河湾の最深部は2500m。湾口は北太平洋に面していますが、北太平洋の平均水深は約4000m。海の表面近くには黒潮が流れているのは、よく知られていますが、海底付近の海水は動かずじっと溜まったままでしょうか。実は太平洋、インド洋、そして大西洋の深い部分は、繋がった一つの海としてゆったりと流れているのです。地球は一つ、かけがえのない海、One Planet, One Ocean といえます。

この地球をめぐる深層水の旅は1000〜2000年かかります。海底に沿って、ゆっくりと流れているのです。放射性炭素を使った年代測定によると、今、世界中の海で最も古い海水は、北太平洋の中緯度の水深2000m辺りだと推定されています。イース・キリストが生まれた頃にグリーンランド沖にあった海水が、ようやく日本の東方の北太平洋の中層にたどり着いたことになりました。表層水と混じり合って浮かび上がった海水は、表面海流となって、北大西洋へと戻ってきます。

海流は気候にも影響を与えます。北緯51度のロンドン、北緯43度の札幌よりも温暖で、真冬でも東京並みの気温です。これは亜熱帯域から流れるメキシコ湾流の暖かく塩辛い海水が、北大西洋海流として欧州へ向かって北東に進み、その暖かい海水の熱エネルギーを偏西風が拾い上げて、欧州を温めるからだといわれます。この熱エネルギーは原子力発電所100万基に相当すると計算されています。

しかし温暖化が進むとどうなるのでしょうか。南極大陸やグリーンランドの氷が溶けて、海面の上昇が生じると懸念されています。でも、それ以上の問題として、グリーンランド沖で海水が沈み込まなくなる可能性を示唆した論文が出されました。

ド沖で、この海水は塩辛く、それが冷やされて重くなることで、表面から水深4000mまで沈んでいきます。それも直径約15kmの海中の滝となつて、一気に沈むのです。その量は世界の河川水の全流量の15倍といわれています。こうして動き出した流れは、北大西洋の深層を南極海に向けて南下していき、ぐるりと南極海を周遊します。その一部がインド洋へ向かい、そして太平洋へと北上します。

この地球をめぐる深層水の旅は1000〜2000年かかります。海底に沿って、ゆっくりと流れているのです。放射性炭素を使った年代測定によると、今、世界中の海で最も古い海水は、北太平洋の中緯度の水深2000m辺りだと推定されています。イース・キリストが生まれた頃にグリーンランド沖にあった海水が、ようやく日本の東方の北太平洋の中層にたどり着いたことになりました。表層水と混じり合って浮かび上がった海水は、表面海流となって、北大西洋へと戻ってきます。

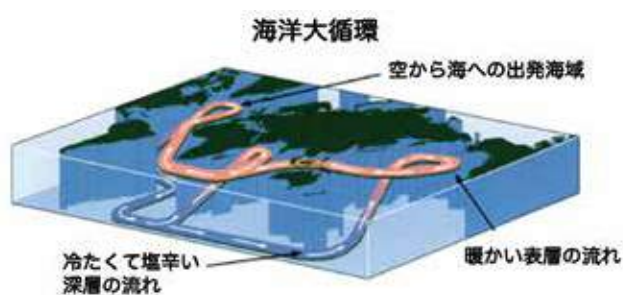


図 1000〜2000年をかけて流れ続ける海洋大循環

た。塩辛い海水は、塩分のせいで重いのですが、氷の溶けた淡水で薄められて軽くなってしまい、沈み込まなくなる。つまり海洋大循環が弱まり、流れが停止するという仮説です。しかも、その変化は早ければ2025年、遅くとも2095年には始まる可能性があるといわれています。そうなれば、メキシコ湾流の暖かい海水が欧州へ届かず、急激に欧州の気温が低下することになります。

約1万年前にヤンガードリアス期という寒冷な時期があり、海底の堆積物を調べた結果、その時に平均気温が10年間で10〜15℃下がっていたという報告があります。この論文では、近い将来に同様のことが起こる可能性を述べているのです。

今の人類は温暖化効果気体を放出し続けることによって、この仮説が正しいのかどうか、壮大で戻りできない実験を進めているのかのようです。もし正しければ、その影響は欧州だけではなく、様々な形で全地球に及ぼすことでしょう。

参考文献

Matsumoto, K., "Radiocarbon-based circulation age of the world oceans" J. Geophys. Res., 112, C09004, (2007). <https://doi.org/10.1029/2007JC004095>
Ditlevsen, P., Ditlevsen, S. "Warning of a forthcoming collapse of the Atlantic meridional overturning circulation" Nature Commun. 14, 4254 (2023). <https://doi.org/10.1038/s41467-023-39810-w>

行動する法人会 ～税制改正要望陳情活動～

法人会では、公平で健全な税制の実現を目指して、会員企業のご意見や要望を反映しながら、税のあるべき姿や将来像を見据え、建設的な提言を行っています。

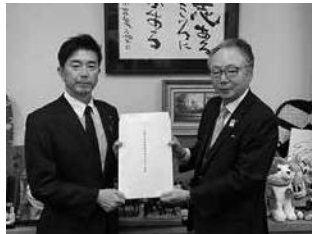
法人会の提言活動は、法人実効税率の更なる引き下げ、事業承継税制の拡充など、中小企業の活性化に資する税制の構築に寄与しています。



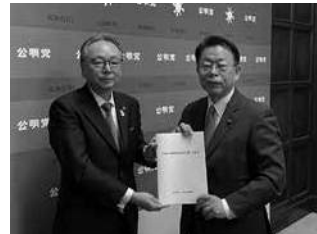
村井 英樹 議員



田中 良生 議員



牧原 秀樹 議員



西田 実仁 議員

11月28日 古川 俊治 議員
11月29日 沢田 良 議員

12月12日 清水 勇人 さいたま市長
12月12日 江原 大輔 さいたま市議会議長
矢倉克夫議員には郵送にて陳情しました。

法人会は「令和6年度税制に関する提言」を決議しました。

令和6年度税制改正スローガン

- ◆ 財政健全化は国家的課題。負担を先送りせず現世代で解決を！
- ◆ 企業への過度な保険料負担を抑制し、経済成長を阻害しない社会保障制度の確立を！
- ◆ 経済再生には中小企業の力が不可欠。健全な経営に取り組む企業に実効性ある支援を！
- ◆ 中小企業は地域経済と雇用の担い手。本格的な事業承継税制の創設を！

※詳細は全法連ホームページをご覧ください。

地域のイベントに参加しています！

～各支部の地域社会貢献活動～



10/7 第21回南区ふるさとふれあいフェア



10/21 第21回桜区区民ふれあいまつり



10/29 第21回緑区区民まつり



11/5 中山道浦和宿二七の市



11/11・12 中央区区民まつり

社長さん、こんにちは



お客様からの「Good Job!」を目指して

株式会社 グッドジョブ

代表取締役 岡部 勉 (おかべ つとむ) さん

〜〜【プロフィール】〜〜

【会社】

創 業：2003年(平成15年)
所在地：さいたま市桜区中島3-4-6
概 要：ビルケア事業部・ハウスクエア事業部・ヒューマンケア事業部・不動産事業部の4つの事業部で、清掃業全般から各種リフォーム工事など建物に関する幅広い事業を展開する。

【社長】

1970年(昭和45年)10月14日生まれ、53歳。さいたま市西区出身。自動車ディーラーで自動車整備士・営業として11年間務めた後に、31歳で起業。グッドジョブを設立した。

▼清掃業との出会い

この会社は、2003年（平成15年）に創業し、清掃業から始まった会社です。

私と清掃業との出会いは、自動車ディーラーで営業として働いていたときのことでした。自動車整備士の専門学校を卒業し、元々自動車整備士として働いていたのですが、入社4年目のときに、営業への職種変更を説得してくれた上司がいます。絶対に営業はやらないつもりで働いていたものの、1年間会うたびに誘ってくれるものから、「この人のためにやってみよう」と5年目で営業に挑戦をしました。

営業の中でも、1年間で100台の車を売るとある程度上にいくことができるのですけども、営業4年目で100台を売るようになりまして。自分の中で漠然と「自分がいる業界外で社長業をやってみよう」という次の人生の目標ができていきました。

そんなことを思っていた最中、お客さんに手書きの手紙を書こうと、ショールームが休みの日に出社をしました。そこで、普段は見たことがない清掃業者のスタッフの仕事を見かけたのです。その業者のスタッフの服装はバラバラで、たばこを吸いながら仕事を進めています。終いにはショールーム内にゴミを広げて昼食を食べるものですから、

「自分が働いている業界では到底あり得ないこういう世界もあるのだな…」と思いました。

それ以来、いつの間にか街中でも清掃業者に注目するようになっていって。見れば見るほどに、「自分が自動車ディーラーで培ってきたノウハウをこの業界で活かしたらどうなるのかな」と考えるように。その後も自動車販売会社で営業として年間100台を売り続けてから、入社11年目で退社しました。

▼モノ売りからサービス売りへ

清掃業界への参入を決めた私ではありましたが、この業界での経験はゼロ。会社を辞めた後は、一体なから準備をしていいものかとホームセンターに行つて、掃除道具売場を眺めているような日々が続きました。1カ月ほど経つたある日、知り合いがとある掃除屋さんを紹介してくれました。人手が足りないときに声を掛けてくれて、働きたいからこの業界についての仕事を学ぶ機会に恵まれました。

そこから会社や仕事を紹介していただけのように、朝、昼間、夜と仕事を掛け持ちするような日々を3年間ほど過ごしました。

清掃業から始めることは決めていたのですが、その後はリフォームやイン

テリアなどにも手を広げて「建物に関することならなんでもできる会社」にしていきたいと会社名を考えていたときに、たまたまテレビで大リーグの野球のニュースが目にとまりました。そのニュースで日本だと「ナイスキャッチ」というところ、向こうでは「Good Job」と言うことを知って。私たちも良い仕事をしたら「Good Job」と言ってもらえるような仕事をしたいなと思いい、社名を「グッドジョブ」に。今では、社員やパートやアルバイト60人と仕事をさせてもらっています。

自動車販売店のディーラーのときから意識していることですが、サービスを提供するこの業界で働くようになってより一層に意識していることは、礼儀と礼節、義理と人情これらを大切にすることです。モノであれば、お客さまがお金を出そうと思う判断というのは「形がかっこいい」だとか「色がカッコいい」だとかの基準があると思うのですが、うちのようないサービスでのお客さまの判断基準は、「人」が判断基準になると思っているからです。

現在この会社は、ビルメンテナンスなどの清掃業以外にも、不動産や家事代行、障がい者グループホームの運営など4つの事業部を柱とした多種多様な仕事を取り扱っています。だからこ

そ暮らしの中で、建物とその環境にかかわる困りごとがあった際、多くのから「ここに電話すれば必ず答えてくれる」と言われるような会社になりたいと思います。

▼税について一言

人とのつながりを大事にしたいと、私はロータリークラブにも加入しているのですが奉仕活動に参加するたびに、税金は世の中を円滑にするために必要不可欠なものであることを実感しています。困った人のために行きわたるよう引き続き税を納めていきたいと思えます。





龍の彫刻を探訪する

秦野昌明

干支は、十干と十二支を組合せた六十年を周期とする数詞で、古代の暦をはじめとして時間、方位、順次等に用いられた。十干は甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸の十種類からなり、十二支は子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥の十二種類からなる。「え」と呼ばれるのは「きのえ」、「きのと」、「ひのえ」、「ひのと」等と陰陽に応じて「え」と「と」の音が入ることに由来する。本来の十干十二支とは自然界のエネルギーの循環、生命の流れ、季節の変化を表していて、覚えやすくする工夫が動物の姿である。なお、十二支に動物を充てるようになるのは後漢（西暦二十五年～二百二十年）の頃といわれる。

二〇二四年は甲辰の年。十干である「甲」は、種が堅い甲冑のような皮をまとっている状態をいう。十二支の「辰」は、植物の茎や葉が形を整えますます大きく伸びる状態をいう。一方の「龍」は、水を噴出し雨を降らせるが、反面、長雨や洪水を鎮める役割も担う。十二支の中で唯一、架空の生き物である。伝来は紀元一世紀頃の弥生時代。およそ八十余の遺跡から龍文様が報告されている（註1）。その後、出雲の八岐大蛇伝承や仏法を守護する八大竜王等を経て、現在知られる勇壮な姿となる。さいたま市域でも、見沼や鴻沼界隈で龍神伝説は多く聞かれる。

干拓前の見沼では、夕刻になると竹笛を吹いてほとりを彷徨い歩く美女がおり、笛の音を聞いた若者はことごとく村から消えてしまったという。この噂は都にまで聞こえ、屈強な武士が真偽を突き止めようとこの地を訪れた。そして、不審な美女を見つけ斬りつけると、一瞬にして雷鳴が轟き暴風雨となった。その翌朝、その場所へ行ってみると一本の竹笛が落ちており、武士は竹笛を神社に納めたという。数年後、老女が神社を訪ねて来て笛を吹かせて欲しいと願ったので、神官は笛を手渡した。老女が笛を吹き始めると神官は眠ってしまい、老女も竹笛も消えてしまったという。同時刻、周辺の人たちは神社から瑞雲が沸き立ち立ち笛の音が聞こえたと噂し、笛の主は見沼の龍神の化身であろうと囁きあったという。

さて、見沼は江戸時代前期に大規模な治水灌漑工事が実施され、第一波の新田開発が盛んとなった。武蔵国の石高の推移を見ると、慶長三年（一五九八）六六七、一〇五石。正保二年（一六四五）九八二、三三九石と三一五、一三四石の増。元禄十年（一六九七）一、一六七、八六三石で一八五、六二四石の増。天保年間（一八三〇～一八四三）一、二八一、四三〇石で一、三、五六七石の増（註2）。増加率の最も高かったのは「慶長」から「正保」の期間で、伊奈氏による利根川・荒川の流路替え、及び河川整備が積極的に進められた時期である。関東代官頭「伊奈忠治」は、赤山に陣屋を築き、荒川の改修を実施し、あわせて寛永六年（一六二九）見沼の木曾呂―附島間に「見沼メ切八丁堤」（約九百mの土堤）を築き面積約一、二〇〇町歩の大溜井を造成した。しかし、市域では溜井により水没する「犠牲田」が多く出現し減収となったが、広大な溜井の水神を龍神に見立てた伝承が多く誕生したと考えられる。

更に、享保年間には見沼干拓を阻止しようとする龍神も登場する。干拓の準備に取り掛かった井沢弥惣兵衛のもとへ、毎夜美女が訪れ干拓をやめてほしいと願うが工事は進み弥惣兵衛は病を患う。ある晩、家来が部屋を覗くと蛇身の女（註3）が弥惣兵衛の体を舂め回していた。事の仔細を聞き弥惣兵衛は肝を冷やし、詰所を万年寺（註4）へ移した。その他、「竜神オタケ様」、「見沼のイモリ」等の龍神伝承が伝わっている。

また、大間木の山口弁天社に伝わる龍神伝承には、馬子が「馬に乗せてくれ」と頼む美女を目的地まで運ぶとお札に小箱をくれた。その箱は「決して開けてはいけない」と言い渡され、馬子は主人の屋敷へ帰り、主人に事のいきさつと小箱を渡す。それ以来屋敷は繁栄するが、ある日のこと好奇心にかられた主人が小箱を開けて見ると中には綺麗なウロコが一枚入っていた。しかし、屋敷はその時から衰退し、やがて絶えてしまったという。龍には八十一枚の鱗があり、中でも顎の下に逆さに

生える一枚の鱗を「逆鱗^{ぎやくりん}」という。龍は背に人を乗せても大丈夫だが、この逆鱗に触れられることを嫌い、怒ると喰い殺すことさえあるという。「逆鱗」とは触れてはならない事柄を意味するが、この伝承はまさに「逆鱗に触れた話」といえよう。

では、さいたま市内の龍彫刻を訪ねてみよう。

人生の岐路となるような大事な舞台を「登竜門」というが、本来は中国の黄河上流にある竜門山を切り拓いて造った「竜門」と呼ばれる堰のことで、「竜門」の激しい流れを昇りきった鯉は龍になれるという『後漢書』の故事がある。この故事から、立身出世の関門を「登竜門」と呼ぶようになるが、大門神社本殿の脇障子には鯉が急流を昇り龍になる途中の「龍魚」の彫刻(註5)がある。また、大門神社境内愛宕社には、夜な夜な抜け出す龍の彫刻をクギで留めて動けなくしたという伝承を伴う龍彫刻がある。その躍動感から左甚五郎作との伝承も面白い。更に、国昌寺(註6)表門の龍の彫刻には、見沼に棲む龍が腹が空くと沼中をのた打ち回り村人を困らせることがあった。そこで日光から江戸への帰路にあった左甚五郎へ頼み、山門に龍の彫刻を彫り封じ込めたため暴れ回らなくなったという。また、彫刻の龍が門下を通る葬儀のご遺体を喰らうという恐ろしい伝承(註7)もある。

一方、鴻沼の西岸にあたる長伝寺(註8)の欄間彫刻には、鴻沼の大洪水の際に欄間の龍が夜な夜な抜け出し沼からあふれる水を飲み乾し、田畑や街を洪水から救ったという伝承がある。

さて、龍神は水や河川を司る守護神である。今世紀に入り豪雨に伴う激甚災害が増加しているが、龍神の年こそ穏やかな一年でありたいと願う。

(註1) 長谷川一英「弥生人が見た龍」岡山市埋蔵文化財センター講座 第三回資料 二〇一九年

(註2) 『武蔵国田園簿』。慶安二年(一六四九)から三年にかけて作成された。

(註3) 女は「龍蛇神」。別所沼では藁で作られた大龍蛇神が練り歩く雨乞いの祭が行われていた。出雲大社の龍蛇神は著名。

(註4) 万年寺は見沼区片柳一丁目一五五番地。曹洞宗の寺。

(註5) 大門神社は緑区大門二九三三番地。本殿は江戸時代後期の建立。

(註6) 国昌寺は緑区大崎二三八番地。曹洞宗の寺。山門は江戸時代中期建立の薬医門。

(註7) 左甚五郎は江戸時代初期に活躍したとされる彫刻職人。活躍期間や逸話等から一人の職人ではなく、全国各地で優れた彫刻等を残した大工・工匠たちの代名詞として語られている。

(註8) 長伝寺は中央区本町東五丁目一三番一三号。浄土宗の寺。



◆大門神社本殿 脇障子の左側「昇り鯉」と右側「龍魚」(龍鯉・化け鯉)と呼ばれる彫刻



◆大門神社境内 愛宕社の龍の彫刻



◆国昌寺表門の龍彫刻



◆長伝寺の龍の彫刻欄間

【筆者略歴】

昭和27年、浦和市北浦和に生まれる。父は浦和、母は大宮、妻は与野で育ち、我が家庭ではさいたま市誕生以前より三市合併が成されていた。こども時代は駄菓子屋通いと紙芝居を楽しみに、古老に街道の昔話を聞き、母の郷里に泊まり見沼の自然に遊ぶ毎日。昭和50年より文化財保護、社会教育等の業務に奉職する。